



地域の医療機関が情報を共有して医療サービスの質の向上を目指す「あじさいネット」が広がりをを見せている。

これは、県内の拠点となる総合病院での検査結果や放射線画像、治療内容、薬剤情報などの診療情報を、患者の同意のもと、かかりつけ診療所などがネット上で閲覧し診療に生かすことで、安全で高品質の医療に役立てるもの。

利用広がるあじさいネット

あじさいネットの情報提供医療機関
(拠点病院)

2013年3月12日現在

県 央	国立長崎医療センター、市立大村市民病院、 国立長崎川棚医療センター
長 崎	光晴会病院、十善会病院、長崎大学病院、 長崎市立市民病院、日赤長崎原爆病院、済 生会長崎病院、聖フランシスコ病院、井上 病院、長崎記念病院、長崎北病院
五 島	長崎県上五島病院 (長崎県五島中央病院：運用準備中)
佐世保	佐世保市立総合病院、佐世保中央病院、佐 世保共済病院 (長崎労災病院(佐世保市)：運用準備中)

医療の質向上へ情報共有

療に生かすことで、安全で高品質の医療に役立てるもの。

2004年に大村地区

で始まり8年を経過したあじさいネットは、昨秋の佐世保地区への展開で、県全域の主な拠点病

院の情報を利用できるようになり、全国最大規模のネットワークに成長した。現在、情報を提供する拠点病院が17、情報閲覧などを行う診療所・薬局などが176、登録患者数は2万5千人を超えた。

地域医療への効果という点では次のようなことが挙げられる。①診療所と拠点病院との連携が強まる②診療所などが立地場所にかかわらず、情報を生かした診療が可能となる③地域での医療機器や検査の重複などを避けることにもつながる④拠点病院での最先端医療を知ることができ、医療関係者の教育支援ツールになる⑤診療記録などを活用し、きめ細やかな診療が診療所で可能となるなど。

点病院での最先端医療を知ることができ、医療関係者の教育支援ツールになる⑤診療記録などを活用し、きめ細やかな診療が診療所で可能となるなど。

国の政策として病院完結型から地域完結型の医療への移行が図られているが、その前提となる地域医療の情報連携に役立つツールがあじさいネットである。多くの診療所の医師などが利用することで、さらに、医療サービスの質の向上につながる。村秀明・長崎経済研究所主席研究員「関連記事を『ながさき経済』13年4月号に掲載」